

西堀川跡 —京都地方気象台構内の調査より—

(財)京都市埋蔵文化財研究所 高橋 潔

はじめに

京都市中京区西ノ京笠殿町所在の京都地方気象台の構内で発掘調査を 2012 (平成 24) 年に行いました。この場所は平安京右京二条二坊十一町の東端と西堀川小路にあたっており、桃山時代に築かれた御土居跡にもあたっています。

1 京都地方気象台構内の調査

京都地方気象台構内に京都地方合同庁舎の新築工事が計画されたため、京都市文化市民局都市推進室文化財保護課が試掘調査を実施、遺構が良好に遺存していることが明らかとなりました。これを受けて(財)京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を行いました。調査の期間は 2012 年 5 月 8 日から 9 月 7 日の 4 か月間、掘削土の仮置き都合で調査区を北と南に分けて行いました。調査の面積は 1,257 m²でした。

調査の概要

① 桃山時代の御土居跡

現代盛土を 50 cm 取り除くと遺構面となり、おおよそ調査区の西半分が堀、東半分が土居(土塁)部分にあっていました。堀は遺構面から約 2.5 m の深さで掘り込まれ、西の端は確認できませんでしたが幅 14 m 以上ありました。土塁はわずかに基底部を確認しましたが、本体は堀を埋めるためにほぼ全体が削られていました。堀の東肩口は幅 2～3 m、深さ 1 m 前後を堀窪めて、粘土質の土を入れて、犬走り状の平坦面を作り、土塁の盛土はその東に積み上げられたとみられます。土塁基底の東端は確認できませんでしたが、土塁の幅は 20 m 以上あります。

② 西堀川(紙屋川)の堆積層

西堀川(紙屋川)の堆積層は、厚さ 2.5 m にも及ぶ砂礫層です。平安時代中期以降、中世にかけて大雨のたびに何度も氾濫して、上流から運んできた土砂を溜め込んで 2.5 m もの厚さになったとみられます。西半の堆積層は御土居の堀の掘削により失われていますが、広い範囲に西堀川(紙屋川)による氾濫堆積の影響があったようです。

この氾濫堆積層の途中にも、路面整地層(路面)や耕作に伴う溝などがあり、氾濫のない安定した時期には道路の復旧が行われたり、田畑として利用されたりしたようです。

③ 平安時代の西堀川小路

2.5 m に及ぶ氾濫堆積層の下には、平安時代前期の西堀川小路を検出しました。西堀川小路は、後述のように特殊な道路です。

今回の調査では西堀川小路の西 2/3 程度を南北約 25 m 分検出しており、西堀川と両側の道路部分と西側溝を確認しました。西堀川小路の西側は右京二条二坊十一町の宅地にあたりますが、先の御土居堀によって壊されて、残っていませんでした。

西堀川(溝 16・135)は幅 5～6 m、深さは検出面より最大 1.3 m、深い U 字状の断面です。東西両壁や底も強い流れによって削りこまれた状態がみられ、東西両岸には何列もの護岸のための杭が打たれていました。全体に砂礫によって埋まっていた。

西堀川の東西両側は道路面の筈ですが、後世の氾濫によって削られて、路面整地とみられる礫敷(路面 137)を部分的に確認したにすぎません。西側の道路幅は 4 m 前後でした。

西側溝(溝 14・136)は幅 4～5 m、深さは検出面から 1～1.2 m、断面が V 字状の溝です。底部には黒色粘質土が堆積して、土器や木製品などが多く出土した。通常の側溝よりも、幅が広く、深く掘られていました。

2 西堀川跡

西堀川は、平安京造営時に左京の堀川とともに計画的に京内に組み込まれた人工河川です。堀川は左京の堀川小路、西堀川は右京の西堀川小路の真中に造られたもので、川の両側には幅 2 丈(6 m)の道路が敷設されていました。『延喜式』京程に記された内容を検討すると、川の幅は 4 丈(12 m)であったようです。小路でありながら、大路並の道路幅(8 丈:24 m)あったとされています。

西堀川は、鷹峯に源流を持つ紙屋川を引き込んだ運河で、資材の運搬や庭園の池への水源として利用されていたようです。ただ、紙屋川は暴れ川として著名な川で、昭和の初めに流路を新たに西へ掘って現在の天神川に接続されるまで、大雨のたびに氾濫を繰り返して周囲の家々に被害を与えてきました。

さて、西堀川はこれまでに発掘調査や立会調査で何度も確認されてきました。実際に西堀川小路の中央に作られていましたが、実際の幅は 2 丈(6 m)前後と狭かったことがわかっています。そして、やはり大雨のたびに氾濫を繰り返し、平安時代中期ごろには埋まってしまい、河川としての機能を失ってしまうようです。もっとも顕著な例が今回の調査といえるでしょう。

堀川関連文献史料

『日本後記』巻八

桓武天皇 延暦一八年（七九九）六月丙申（廿三日）

丙申。從五位下紀朝臣嗣梶。從五位下藤原朝臣綱主授從五位上。正六位上桑田真人甘南備從五位下。』是日。詔曰。朕祇纂丕業。撫臨黎元。尅己勤躬。不遑寧處。思欲輯熙四海。期之刑措。弘濟百姓。致之壽域。而近巡京中。過堀川處。鉗鎖囚徒。暴體苦作。興言於茲。愀然于懷。雖生民之愚。自招罪惡。而爲彼父母。寧不哀愍。其在役見徒。及天下見禁囚等。罪無輕重。並宜赦除令得自新。但私鑄錢。謀殺故殺。及被問民苦。使推訪諸国郡官吏百姓等。不在赦限。其謀殺故殺配役者。停役配流。普告遐邇。令知朕意。

『続日本後記』巻一

仁明天皇 天長十年（八三三）五月甲寅（廿八日）

太政官処分。課左右京戸。令輸檜柱一万五千株。以充東西堀河杭料。

『延喜式』巻四二 左右京職

凡堀川杭者。不論課不課戸頭輸之。其戸十九人已下一株。廿人已上二株。卅人已上三株。（長八尺以下七尺以上。本径五寸。末径三寸。）

京程

東西一千五百八丈（通計東西両京。）

自朱雀大路中央。至東極外畔七百五十四丈。

朱雀大路半広十四丈

次一大路十丈

次一大路十二丈（大宮）

次二大路各八丈（東西洞院也）

東極大路十丈

小路十二。各四丈。（一路加堀川東西辺各二丈。）

町十六。卅丈。

右京准此。

小路広四丈

自垣半至溝辺。□五尺五寸（垣基二尺五寸。犬行三尺。）

溝広□三尺

両溝間二丈三尺

（計算式）

$$1508 \text{ 丈} \div 2 = 754 \text{ 丈}$$

$$14 \text{ 丈} + 10 \text{ 丈} + 12 \text{ 丈} + 8 \text{ 丈} \times 2 + 10 + 4 \text{ 丈} \times 12 + 40 \text{ 丈} \times 16 = 750 \text{ 丈}$$

$$754 \text{ 丈} - 750 \text{ 丈} = 4 \text{ 丈}$$

3 御土居跡

御土居は、天下統一をなした豊臣秀吉が、天正十九年（1591）軍事的防御と洪水対策のために京の町を取り囲むために築きました。外側に堀を備えた大規模な土塁で、北は上賀茂・鷹峯、西は紙屋川から東寺、東は鴨川、南は九条通まで南北 8.5km、東西 3.4km、総延長は 22.5km に及んでいたといわれます。ごく短期間で作られたと考えられ、最近の研究では閏正月に作り始め、二月には過半成就したともいわれています。

御土居の堀と土塁は、明治時代までは市内各所に残されていましたが、大正時代頃には大半が壊されたようです。土塁を壊し、その土で堀を埋めたようです。現在も土塁が残されている 9 か所については史跡に指定され、「史跡 御土居」として保存されています。今回の調査地のすぐ南にも、市五郎大明神の境内として、土塁が良好に保存されています。また、「御土居の袖」にあたる北野中学校の構内、御土居北辺の大宮交通公園内の 2 か所に史跡に指定されていない土塁が残されています。

このほかに、発掘調査でも土塁と堀を確認した例があります。発掘調査では、土塁部分は既に壊されていて基底部の盛土がわずかに確認される程度ですが、堀部分は壊した土塁の土によって埋められており、良好に残っています。土塁部分の基底部は幅約 20 m、堀は幅 12.5 ～ 20 m、深さ 1.5 ～ 2.5 m ありました。土塁の土は外側に掘る堀の土を盛り上げたと考えられます。

おわりに

今回の京都地方気象台における調査では、平安時代前期の西堀川小路と桃山時代に築かれた御土居を検出しました。この西堀川小路と御土居（土塁基底部）の間には、約 2.5 m の厚さで砂礫層が堆積していました。これは、平安時代から氾濫を繰り返した西堀川の溜め込んだもので、広範囲に広がっていたことがわかっています。

平安京の右京域は、衰退が早く平安時代中期以降には人が住めない状態になったといわれています。今回の調査で確認した氾濫堆積層は、右京衰退の一因であると思えるほどの砂礫堆積でした。桃山時代に豊臣秀吉が防御と洪水対策のために築造した御土居が、この洪水堆積の上に築かれたことは面白い歴史的現象といえるのではないのでしょうか。

（参考）京都地方気象台の略歴（『京都気象 100 年 京都地方気象台創立 100 周年記念誌』1981 年 3 月）

明治 13 年（1880）10 月	「観象台」京都御苑内に創立。気象観測開始。（堺町御門の北東約 100 m）
明治 14 年（1881）3 月	「京都府測候所」と改称。
大正 2 年（1913）4 月	現在の西ノ京笠殿町 38 へ移転。（木造、モルタル平屋、一部 3 階）
昭和 14 年（1939）11 月	国営に移管、「京都測候所」に改称。
昭和 32 年（1957）9 月	京都地方気象台に昇格。
昭和 43 年（1968）3 月	庁舎改築（鉄筋コンクリート 2 階建、一部 3 階）

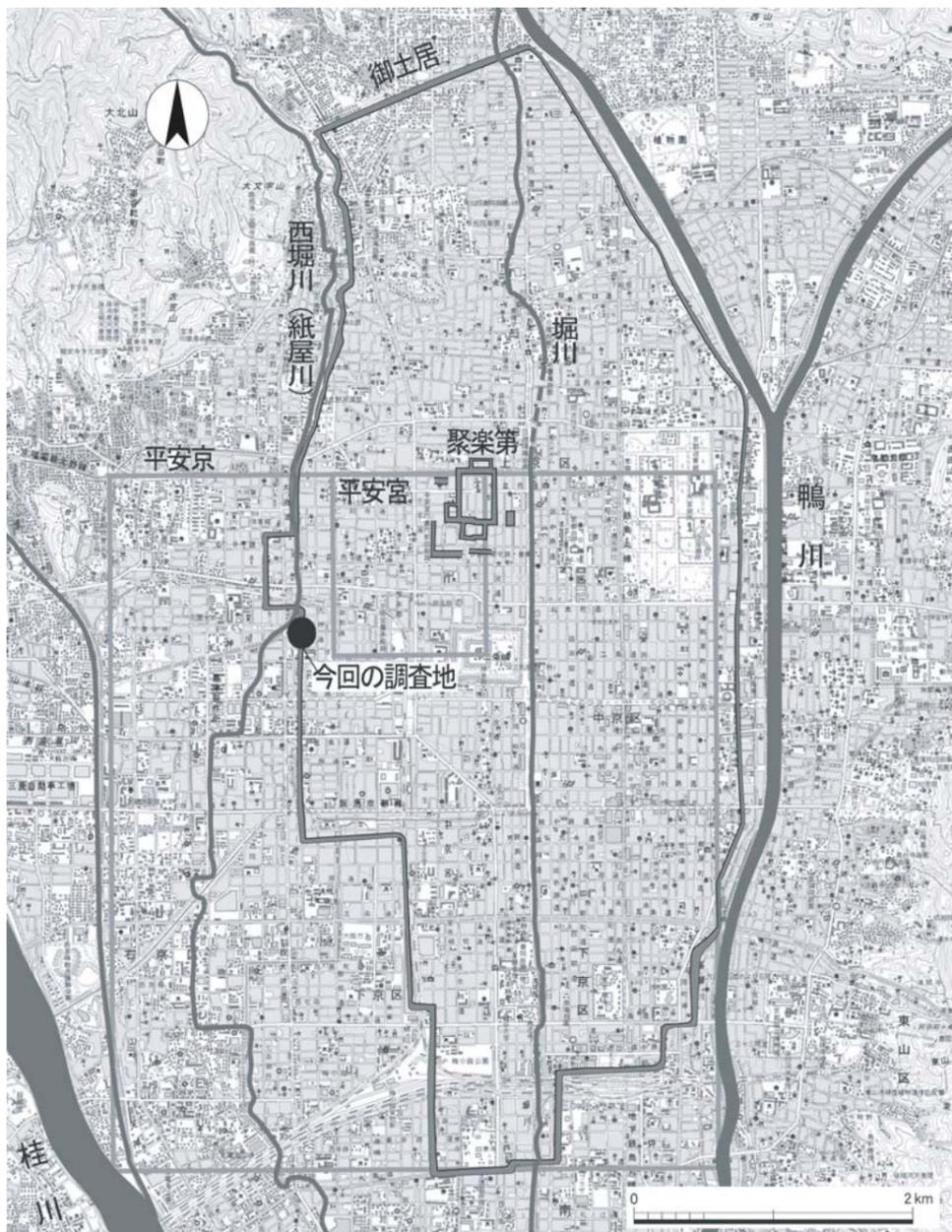


図1 平安京・御土居と調査地位置図 (1:50,000)



図2 調査地周辺地図 (1:7,000)

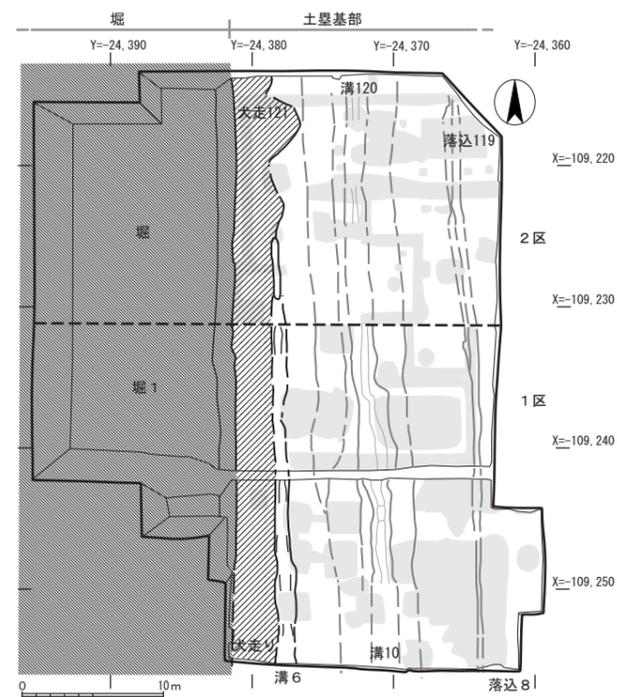


図3 第1面平面図 (1:500)

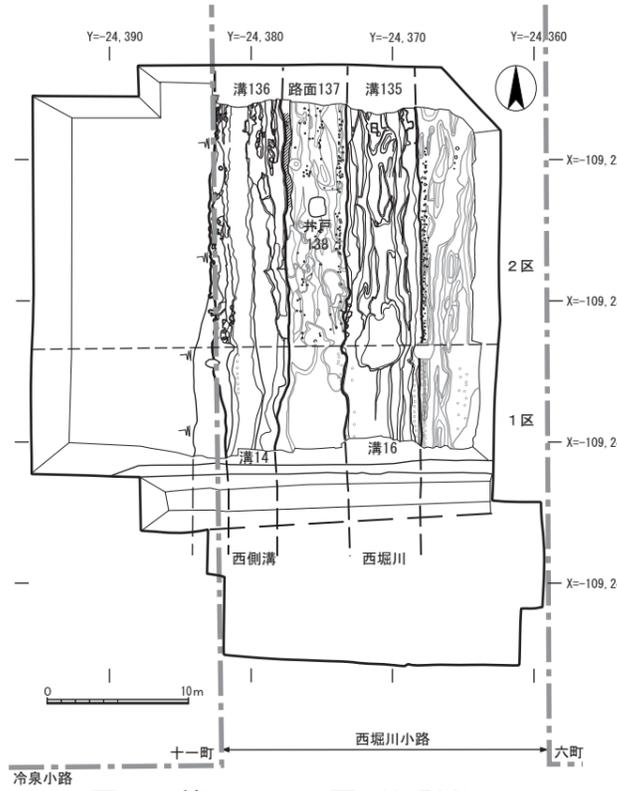


図4 第2面平面図 (1:500)

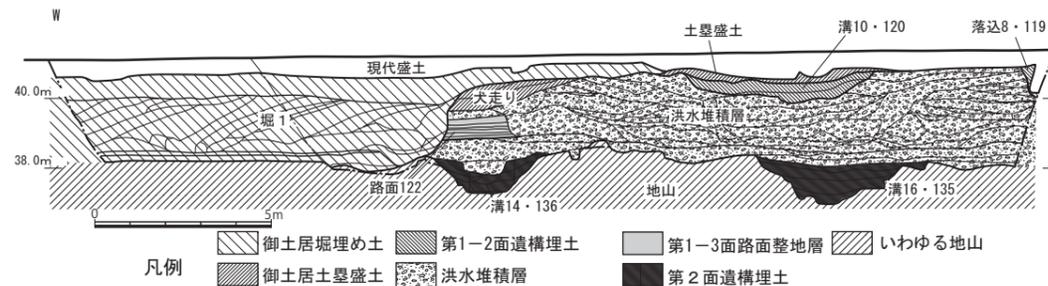


図5 北壁断面図 (1:200)

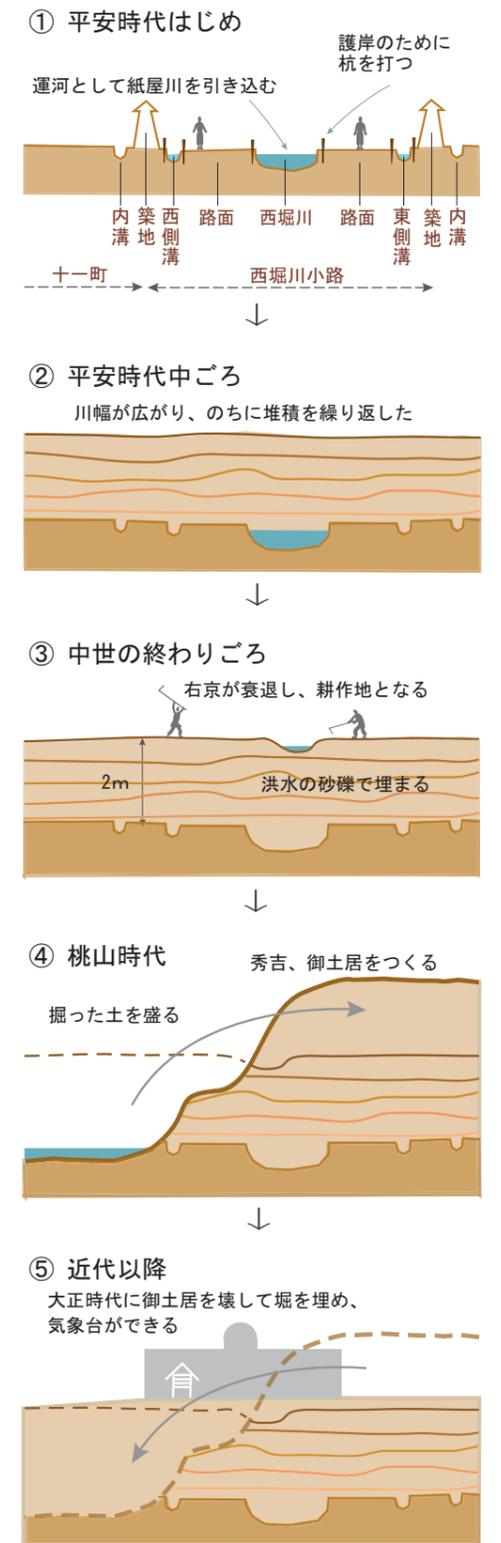


図6 変遷模式図

表1 西堀川小路関連遺構検出調査一覧表

調査番号	条坊	調査	所在地	期間	成果	文献
1	右京北辺二坊	試掘	北区大將軍川端町27	1980.7.22	地皮下1.6mで紙屋川の堆積。	「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』1985年
2	右京二条二坊十一町	発掘	中京区西ノ京笠殿町38	2012.5.8～9.4	西堀川小路西側溝・西堀川を検出。	本調査
3	右京三条二坊八・九町	立会	中京区西ノ京東中合町56～銅駝町56	1984.2.13～3.23	西堀川流路。地表下0.1m以下灰褐色砂礫・暗灰色泥土、深さ1.3m以上。	百瀬正恒「右京三条二坊」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1985年
4	右京三条一・二坊	立会	中京区西ノ京東中合町～西ノ京月光町	1984.7.2～11.29	西堀川小路西側溝・西堀川を検出。	「昭和59年度試掘・立会調査一覧表」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1987年
5	右京三条二坊十町	発掘	中京区西ノ京原町64	1982.6.17～7.10	西堀川小路を検出。堀川幅6m・深さ1m、10世紀後半に埋没。西側路面は幅6m。西側溝は深さ1m。	平尾政幸・辻純一「右京三条二坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1984年
6	右京四条二坊	立会	中京区壬生西大竹町ほか	1981.12.17～1982.3.31	西堀川流路。道祖川へのバイパス?あり	百瀬正恒「右京四条二坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(試掘・立会調査編)』1983年
7	右京四条二坊十一・十二町	立会	右京区西院東淳和院町5-4ほか	1997.2.21～2.28	西堀川小路西側溝(幅1.2m、深さ0.23m)、西築地基底(幅3m)、内溝(幅1m、深さ0.43m)	長戸満男「平安京右京四条二坊十一・十二町 淳和院」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』1998年
8	右京四条二坊十二町	試掘	右京区西院東淳和院町5-4ほか	1992.9.17	西堀川小路西築地の内溝。西側へ氾濫	長谷川行孝「平安京右京四条二坊十二町跡」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成8年度』1997年
9	右京五条二坊五町	発掘	中京区壬生西檜町10	1980.10.15～10.31	西堀川流路。幅14.8m、深さ0.6～0.8m。当初は6m。	堀内明博「平安京右京五条二坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和55年度』1981年
10	右京五条二坊十一町	立会	中京区壬生西檜町10	1991.9.21～9.26	西堀川小路流路。地表下0.63m以下。平安前期から後期	「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成3年度』1992年
11	右京五条二坊・六条二坊	立会	右京区西院高山町～中京区壬生東高田町地先	1981.6.18～1982.3.31	西堀川小路。東側溝(幅1.3m、深さ0.3m)。西堀川(幅15.6m)、東肩に角杭。西堀川は東西方向に流れる?下層に京造営以前の流路。	百瀬正恒「右京五条二坊・六条二坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(試掘・立会調査編)』1983年
12	右京六条二坊六町	発掘	下京区西七条御前田町～右京区西院南高田町	2006.3.27～8.3	西堀川小路の東築地・東側溝・路面・西堀川を検出。西堀川(幅14～16m、深さ1.1m)、西側に大きく広がる。9世紀後半～12世紀代。	小椋山一良ほか『平安京右京六条二坊六・十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-3 2007年
13	右京六条二坊七町	立会	中京区壬生東高田町4-1	1989.9.18	地表下0.74m以下、平安中期の流れ堆積。	「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』1990年
14	右京七条二坊七町	発掘	下京区西七条西石ヶ坪40	1983.4.20～5.14	西堀川小路の東側溝、東築地。西堀川旧河川(平安後期～近世)	平田泰・丸川義広「右京七条二坊」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1985年
15	右京七条二坊十町	試掘	下京区西七条西石ヶ坪38-1・2	1993.10.13	地表下0.8mで、西堀川小路の西側溝。	「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成5年度』1994年
16	右京七条二坊	試掘	下京区西七条西石ヶ坪40	1982.3.16	西堀川とみられる東側への大きな落ち込み。	「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和57年度』1983年
17	右京八条二・三坊	立会	下京区七条御所ノ内北町	1981.9.18～10.28	西堀川小路の西側に広がる流路。	百瀬正恒「右京八条二・三坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(試掘・立会調査編)』1983年
18	右京九条二坊九町	試掘	下京区七条御所ノ内南町98-1ほか	1994.7.11	地表下1.2mで西堀川小路の路面・側溝・西堀川。	「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』1995年

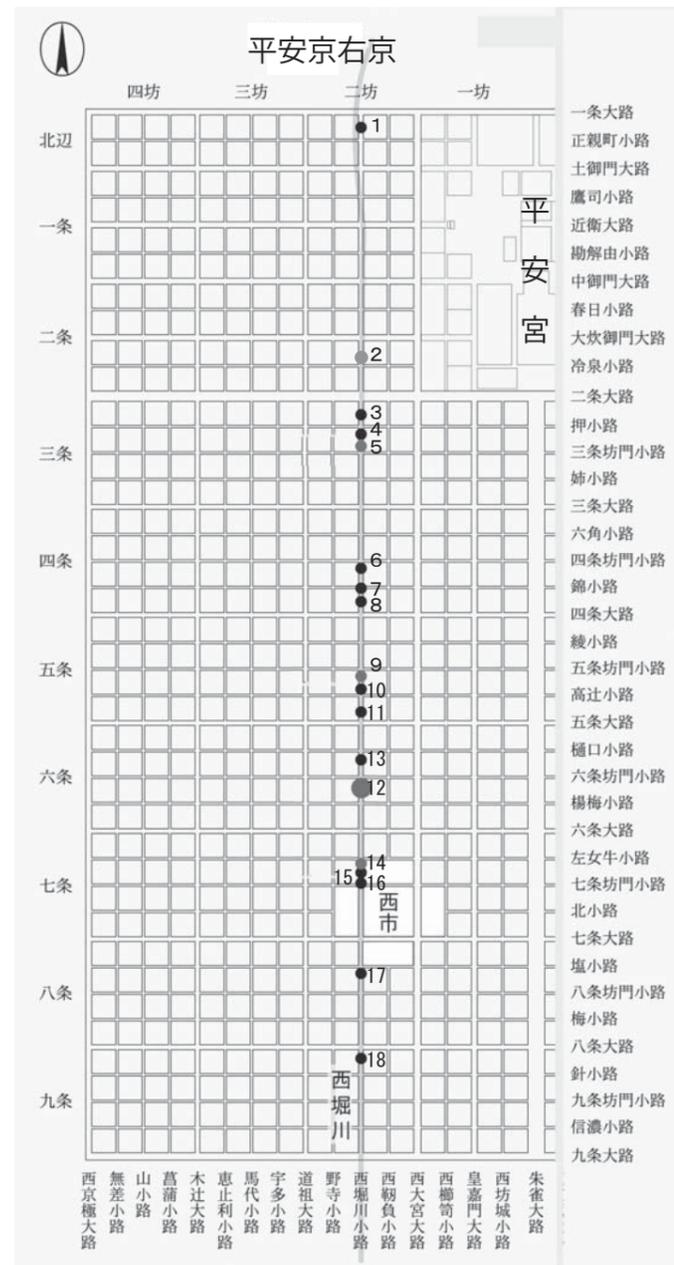


図7 西堀川小路関連遺構検出地点位置図

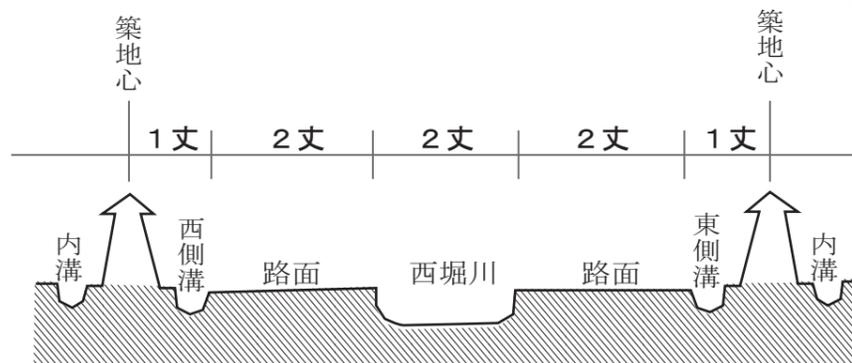


図8 西堀川小路模式図

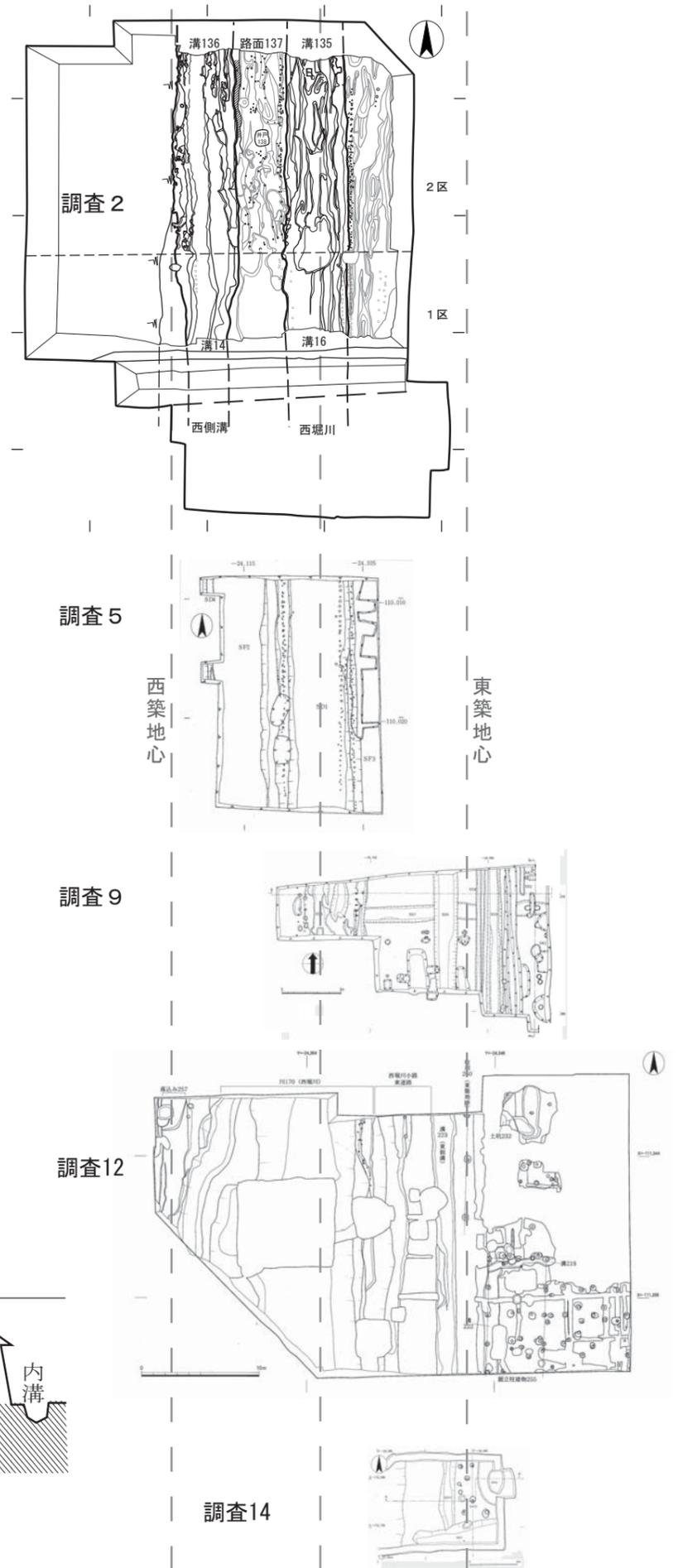


図9 発掘調査で検出した西堀川小路関連遺構 (1:500)

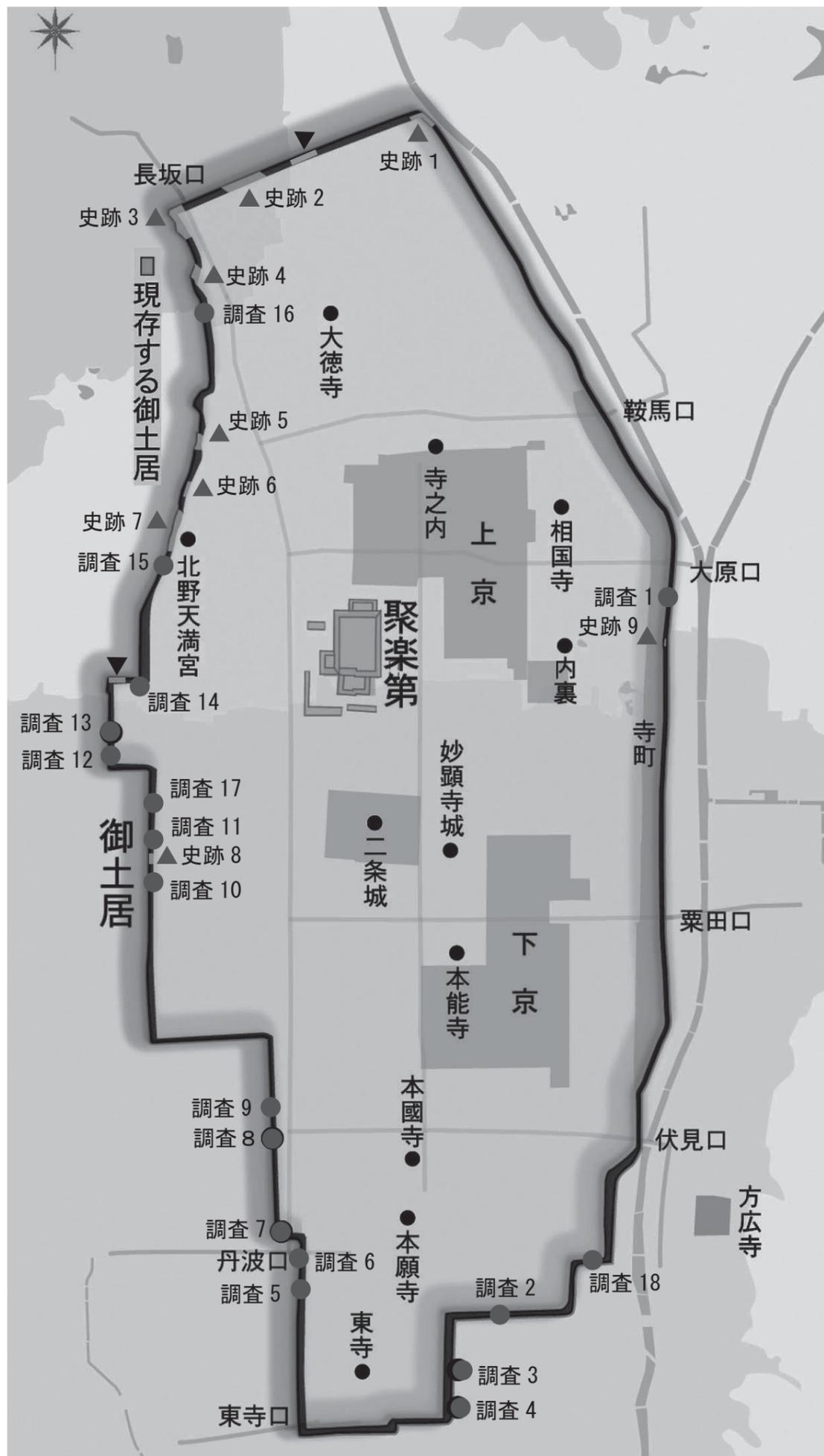


図10 御土居 史跡指定地と調査地点

表2 御土居 調査と史跡指定地

調査年	調査	所在地	検出遺構	御土居と寺町区画	文献
調査1	2007年 試掘	上京区御車道今出川下る二丁目栄町	南北方向の溝	御土居と寺町区画	「御土居跡・寺町旧城」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成22年度』2009年
調査2	1993年 緊急	下京区東塩小路向畑町 京都駅駅舎改築	東西に続く泥土層	東西堀の埋土か	報告なし
調査3	1991年 発掘	南区西九条鳥居口町	南北方向の堀（深さ2.5m）、木製品大量出土	堀	「平安京左京九条二坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1995年
調査4	1984年 発掘	南区九条春日町	南北方向の堀（幅20m、深さ1.5m）、木製品大量出土	堀	「平安京左京九条二坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1987年
調査5	2004～2006年 発掘	下京区観喜寺町 JR山陰線複線化工事	南北方向の堀（幅14m、深さ1.8m以上）⇒砂礫で埋没	堀	『平安京跡・御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-18 2007年
調査6	2009年 発掘	下京区朱雀正会町	南北方向に続く整地層（東西12m、南北5m）	土塁基底部	『平安京左京七条一坊四町跡・御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-1
調査7	1982年 発掘	下京区朱雀堂ノ口町 中央市場内	東西方向の土塁と堀	土塁と堀	「右京七条一坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1984
調査8	1997年 発掘	下京区中堂寺南町	南北方向の堀の西肩	堀	「平安京右京六条一坊」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1999年
調査9	2000年 発掘	下京区中堂寺南町	南北方向の堀（幅14m）	堀	『平安京右京六条一坊・左京六条一坊』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2002-6
調査10	1982年 発掘	中京区西ノ京原町	検出なし		「右京三条二坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1984
調査11	2000年 立会	中京区西ノ京原町	湿地堆積	堀埋土か	『京都市内遺跡立会調査概報』平成13年度 2002年
調査12	1997年 発掘	中京区西ノ京南円町 JR山陰線複線化工事	土塁盛土、土塁内側から外への排水用の溝	土塁	「平安宮左馬寮・朝堂院・平安京右京一・二条二～四坊」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1999年
調査13	1991年 発掘	中京区西ノ京円町	南北方向の土塁基底部（幅16m）、西に犬走り状の段、東側（内側）に溝。	土塁	「平安京右京一条二坊」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』2002年
調査14	1987年 発掘	中京区西ノ京中保町 北野中学校構内	堀の南肩		「平安京右京一条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1991年
調査15	1988年 立会	上京区今小路通御前通 西入紙屋川町	整地層	土塁基底部か	『昭和63年度 京都市内遺跡試掘立会調査概報』
調査16	1995年	北区鷹峯旧土居町 佛教大学構内	検出なし		門田誠一「土城としての御土居 一土築構造と立地についての基礎的予察一」『文学部論集』83 佛教大学 1993年3月
調査17	2012年 発掘	中京区西ノ京笠殿町 京都地方気象台構内	南北方向の土塁基底部、西に犬走り状の段、西側に堀（幅14m以上）	土塁基底部と堀	本調査
調査18	2013年 発掘	下京区小稲荷町22-2ほか	東西方向の土塁基底部。	土塁基底部	調査中。
史跡1		北区紫竹上長目町・上堀川町（加茂川中学校北）		土塁	
史跡2		北区大宮土居町（玄塚下）		土塁・堀	
史跡3		北区鷹峯旧土居町2		土塁	
史跡4		北区鷹峯旧土居町3（御土居史跡公園）		土塁	
史跡5		北区紫野西土居町		土塁	
史跡6		北区平野鳥居前町		土塁	
史跡7		上京区馬喰町（北野天満宮境内）		土塁・紙屋川	
史跡8		中京区西ノ京原町（市五郎大明神境内）		土塁	
史跡9		上京区寺町広小路の北之辺町（廬山寺境内）		土塁	
		北区大宮西脇台町 大宮交通公園		土塁	
		中京区西ノ京中保町 北野中学校構内		土塁	